

令和8年度 学校づくりビジョン

島本町立第二小学校
校長 川口 直樹

はじめに

2020年代を通して実現をめざす「令和の日本型教育」のあり方は、「すべてのこどもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」と「協働的な学びの実現」である。また、就学前の幼児教育と小学校教育の連携は、まさに、本町の「みづまるキッズプラン」の取り組むところである。さらに学校現場ではICTを活用した教育・GIGAスクール構想の実現をはじめとした多様な教育方法や学習方法に取り組んでいる。こどもたちが生きていく社会は、この先、Society5.0、第4次産業革命と言われる未来社会に向かい、大きく変化する社会経済情勢や国際社会の中で、自立して力強く生きる人づくりが求められている。また、今後も未曾有の非常変災等に備えて、様々な想定を念頭に準備をしていく必要がある。学校教育は、その社会を生き抜くための力をこどもたちにつけていくことが使命である。こども一人ひとりが個性的で主体的な存在として成長していくための援助に注力し、こどもの「学びと育ち」を最大限に引き出せるよう、法的な根拠に基づく組織的な教育活動を通して、安全を最優先とした上で全教職員がチームとして、こどもたちに楽しい充実した学習活動を提供できるよう、力を発揮してほしい。

学校経営方針が具現化されるためには、教職員の理解と協力、保護者や地域の理解と応援が欠かせない。教職員一人ひとりが組織の一員である自覚を持ち、こどもたちの未来のために一人ひとりの持ち味を生かし、できることから着実に実施し、保護者や地域への発信をしていくこと。そして、こどもたちの「無限の可能性」を信じ、この学校の教育目標を具現化するために、共に取り組んでいこう。

1 学校教育目標

☆「互いを認め合い、安心して学べる学校

～一人ひとりが自分らしく輝き、みんながしあわせに～

2 めざす子ども像

- ◇「自ら考え判断し、行動できる子ども（自律）」
- ◇「違いを理解し、対話を通して課題解決できる子ども（尊重）」
- ◇「豊かな発想を持ち、創意工夫できる子ども（創造）」

3 すべての子どもが自分らしく育つために必要な3つの力

- ①「自分の考えをつくる力（自己表現力）」
- ②「チャレンジする力（課題探究力）」
- ③「人を大切にする力（社会参画力）」

- ・すべての子どもが主役になれる学校、すべての子どもが育つ学校をめざす。
- ・多様な集団の中での当事者意識を育む。
- ・人は違って当たり前。人と違うことを大切にする。
- ・10年後の社会で生きて働く学力を言語化した3つの力は、他者が評価できるものではなく、すべて自己評価になる。

4 子どもの自律・尊重・創造を促すための教職員の関わり

- ・自律するために何が必要か、自他を尊重するためにどんな学びが必要か、創造するために教職員はどんな関わりが必要か、目の前の子どもから学ぶ。
- ・すべての教育活動において、3つの力を上位目標に置き取組む。
- ・困っている子どもと、その周りの子どもを対等につなぐ。
- ・子どもが当事者として、自分たちでトラブルを解決できるよう、対話の方法を教え、支援する。
- ・子どもが自分のことは自分で決めることができるよう支援する。

5 学校組織づくり

- ・一人の子どもの命を守り、目の前の困っている子どもが前向きになるために、教職員は人の力を活用できるようになること。
- ・困っている子どもが、困らないようにするために、チーム対応し、気付いたら瞬時に困り感を共有する職員室を創る。
- ・教職員がありのままの自分の姿で、自分の言葉で対話できる職員室を創る。
- ・非常変災時等の危機管理体制の確立と情報伝達ルートを明確にする。

6 地域に根付いた学校を創る

- ・子ども、教職員、保護者、地域の方々が当事者として、自分の学校を自分で創る。
- ・教職員、保護者、地域の方々が多様な大人が手をつなぎ、子どもの学びと成長を360度から見守れる学校、地域社会を創る。
- ・校区に施設のある学校として施設理解を深め、子どもにとって学校が学びの場であり、仲間と過ごす居場所となるように、日常的に施設と連携を図る。
- ・すべての保護者が、すべての子どものサポーターになることで、子どもたちの学びの環境をより豊かなものにする。→最大の応援団に。
- ・保護者にとって学校が居心地の良い場所、何でも相談できる場所、子どもと共に学ぶ場所となるようにする。

◆最後にこの学校に関わるすべての児童・保護者・地域の方々・学校関係者が昨日より今日、今日より明日、よりよい一日となるように、その先の未来を築けるように、また、誰もが自分らしく生きていける世の中になるように、一人ひとりが持てる力を発揮していくことを切に願う。